

「アホウ塀と歴史的建造群」

長崎県壱岐市

土肥家は、平戸藩に限らず九州の各大名に金銭の貸付を行っていた。各大名の使者、もしくは藩主自从来遊することもあり、この屋敷はこれらの接待、来客の宿舎に使われていた。さらに、邸内には、身請けした京都、大阪の遊女を数多く住まわせていたという。

アホウ塀には船で運んだ串山半島の石材を用い、普請には3年の歳月が掛かった。アホウ塀の普請の際、労働者への賃金は一定ではなく、一拳の入る壺に金銀銅鉄の各貨幣を混入し、各人一握りを賃金として持ち帰ら



アホウ塀

せたとい

う。また、財産を人に施し、皆と富を共にするのを楽しみ、土肥家の来客には勝手口に備えた大箱にある天保銭を一握り持ち帰らせるのを常にしたそうである。

このように土肥家は豪勢を極め、「浜の真砂は尽きても、土肥の金銀は尽きない」とまでいわれ、贅沢の限りを尽くした。



歴史的建造群

みどころ



- 辰ノ島：アホウ塀のすぐ近くの勝本漁協の前から渡船が発着し、約2 kmほど離れた無人島。壱岐の国定公園の中でも唯一特別保護地区に指定されている。島の中には環境省の「快水浴場百選」にも選ばれた辰ノ島海水浴場（遠浅に恵まれた白砂の浜）があり、夏は海水浴客で賑わい、外海では釣り等が楽しまれている。現在、辰ノ島を一周するグラスボート遊覧が人気で、島の北側にある波の浸食により作り出された岸壁は壮大である。
- イルカパーク：海とつながっている入り江でイルカを飼育しているふれあい施設。現在10頭のバンドウイルカが飼育されている。イルカたちは入り江内を自由に泳いでおりいつでも自由に観覧できる。周りの自然と自由に泳ぐイルカたちを見て、ゆったりとした時間を過ごせる。